

## 上映スケジュール Calendrier

7.3 [金]	18:20	ヒロシマモナムール <i>Hiroshima mon amour</i>
7.4 [土]	13:45	5時から7時までのクレオ <i>Cléo de 5 à 7</i>
	15:30	冬の旅 <i>Sans toit ni loi</i>
7.5 [日]	13:45	シベリアからの手紙 <i>Lettre de Sibérie</i> ラ・ジュテ <i>La Jetée</i> *岡田秀則氏 [国立映画アーカイブ] によるトークあり
	15:55	サン・ソレイユ <i>Sans Soleil</i>
7.6 [月]	13:30	幸福～しあわせ～ <i>Le Bonheur</i>
	15:15	アニエスによるヴァルダ <i>Varda par Agnès</i>
7.7 [火]	13:30	創造物 <i>Les Créatures</i>
	15:25	歌う女・歌わない女 <i>L'une chante, l'autre pas</i>
7.8 [水]	13:30	サン・ソレイユ <i>Sans Soleil</i>
	15:35	シベリアからの手紙 <i>Lettre de Sibérie</i> ラ・ジュテ <i>La Jetée</i>
7.9 [木]	13:30	アニエスによるヴァルダ <i>Varda par Agnès</i>
	15:45	5時から7時までのクレオ <i>Cléo de 5 à 7</i>
7.10 [金]	13:30	冬の旅 <i>Sans toit ni loi</i>
	15:35	幸福～しあわせ～ <i>Le Bonheur</i>
7.11 [土]	11:40	創造物 <i>Les Créatures</i>
7.12 [日]	11:40	歌う女・歌わない女 <i>L'une chante, l'autre pas</i>

[入場料金] 一般……1600円/横浜シネマリン会員・アンスティチュ・フランセ会員……1300円  
 大学生・専門学校生・シニア (60歳以上)……1300円/高校生以下……800円  
 購入はシネマリン受付またはオンラインショップにてお求めください



[会場・お問い合わせ]  
**横浜シネマリン**

231-0033 神奈川県横浜市中区長者町6丁目95  
 TEL 045-341-3180 | <https://cinemarin.co.jp/>



写真から映画へ——ヌーヴェルヴァーグ左岸派 主催: 横浜日仏学院 | 共催: 横浜シネマリン

# De la photographie au cinéma

## Nouvelle Vague Rive Gauche

ヌーヴェルヴァーグ左岸派  
 ——写真から映画へ

横浜シネマリン | 7.3 [金] —— 12 [日]

主催: 横浜日仏学院 | 共催: 横浜シネマリン



# ヌーヴェルヴァーグ左岸派——写真から映画へ

## De la photographie au cinéma – Nouvelle Vague Rive Gauche

### アニエス・ヴァルダ監督作品 Les films d'Agnès Varda

#### 5時から7時までのクレオ *Cléo de 5 à 7*

【フランス=イタリア/1961年/90分/DCP/モノクロ】

出演：コリンヌ・マルシャン、アントワーヌ・ブルセイェ、ドミニク・テレ、ミシェル・ルグラン

病気の不安におびえるシャンソン歌手クレオの5時から7時までを、リアルタイムで、ヌーヴェルヴァーグ特有の瑞々しい手法で描いたヴァルダ初期の傑作。カメラは初夏を迎えたパリの街をタクシーや車やバスによって移動し、カフェやバス、公園の中の人々、木漏れ日をとらえながらも、沈黙しているクレオの不安を見事に表現している。若きゴダールやアンナ・カレーナが映画の中映画のサイレント喜劇に出演している。



©agnes varda et enfants 1994

#### 創造物 *Les Créatures*

【フランス/1965年/90分/DCP/モノクロ・カラー】

出演：ミシェル・ピコリ、カトリーヌ・ドヌーヴ、リュシアン・ボダール

一組のカップルの人生と、小説の誕生の物語、ふたつの物語が語られる。

「私がこの作品に興味を持ったのは、愛し合い、孤独を捨てるふたりの人物としてではなく、孤独であるという問題を抱えているふたりのカップルを見せることでした。ふたりはしかし、愛の中から、そしてふたりでいることの孤独から活力を見出すのです」——アニエス・ヴァルダ



#### 幸福～しあわせ～ *Le Bonheur*

【フランス/1964年/80分/DCP/カラー】

出演：ジャン＝クロード・ドルオー、クレール・ドルオー、マリー＝フランス・ボワイエ

仲むつまじいフランソワとテレーズには二人の子供があり、日曜日ごとに森にピクニックに出かける幸せそのものの家族。だが、ある日フランソワは他の女性と関係进行してしまう。ひまわりの黄色など、原色の鮮やかな色彩、そしてモーツァルトの調べの中で、家族の幸福の均衡が徐々に崩れていく。



©agnes varda et enfants 1994

#### アニエスによるヴァルダ *Varda par Agnès*

【フランス/2019年/119分/DCP/カラー】

出演：アニエス・ヴァルダ

アニエス・ヴァルダの半世紀を超える創作の旅。長編デビュー作『ラ・ポワント・クールト』から、世界中を魅了した『顔たち、ところどころ』まで。映画、写真、アート——自由な発想で時代を切り拓いてきたアニエス・ヴァルダが、自らの人生と創作の軌跡を情熱とユーモアたっぷりに振り返る。貴重な映像とともに紡がれる本作は、一人の映画作家の記録であると同時に、好奇心を失わず生きた一人の女性の物語でもある。



©2019 Cine Tamaris – Arte France – HBB26 – Scarlett Production – MK2 films

#### 冬の旅 *Sans toit ni loi*

【フランス/1985年/105分/DCP/カラー】

出演：サンドリーヌ・ボネール、マーシャ・メルル、ステファヌ・フレス、ヨランド・モロー

冬の田舎道に行き倒れて死んだ少女モナ。誰も知る事のない彼女の身に何が起こったのか？彼女と知り合った何人かの証言からモナの孤独な旅の物語が、少しずつ明らかになってゆく……。数枚のテキストのみで、アニエス・ヴァルダとサンドリーヌ・ボネールが即興で作り上げていったロード・ムーヴィーの傑作。



©1985 Ciné-Tamaris / films A2

#### 歌う女・歌わない女 *L'une chante, l'autre pas*

【フランス=ベルギー/1976年/107分/DCP/カラー】

出演：テレーズ・リオタール、ヴァレリ・メレックス

「女に生まれるのではない、女になるのだ」シモーヌ・ド・ボーヴォワール

1962年パリ、歌手を目指している明るく、人気者の17歳の高校生、ポリヌ（通称ボム）と、カメラマンの男性の内縁の妻で、22歳の若さで2人の子供がいるシュザンヌ。対照的だが相似関係にあるふたりは心を通わせながらも別々の道へ進む。10数年後、彼女たちは女性解放運動のイベントで再会する。立場も生き方も違うふたりの女性の15年に渡る友情が、喜劇的な要素やメロドラマ的要素を織り交ぜながら描かれていくアニエス・ヴァルダの代表作の一本。



写真誕生200周年を記念して、横浜シネマリンでフランス・ヌーヴェルヴァーグと写真の関係に焦点を当てた特集上映を開催します。ヌーヴェルヴァーグ左岸派の代表作家であるアニエス・ヴァルダ、クリス・マルケル、アラン・レネの作品を通じて、静止画と記憶、映画のつながりを探るとともに、リチャード・リンクレイター監督作『ヌーヴェルヴァーグ』の日本公開にあわせた関連企画としてお届けします。

### クリス・マルケル監督作品 Les films de Chris Marker

#### ラ・ジュテ *La Jetée*

【フランス/1962年/28分/デジタル/モノクロ】

出演：エレヌ・シャトラン、ダヴォス・ハニッヒ、ジャック・ルドゥー

第三次世界大戦後、放射能に汚染された地上を捨て、人類は地下で生き延びていた。生存への希望を託され、過去と未来への時間旅行実験に送り込まれた一人の男。そこで彼は、幼い頃から忘れられずにいた女性と出会い、強く惹かれ合っていく。やがてその出会いは、時間と運命をめぐる壮大な物語へと姿を変える——。静止画による革新的な映像表現で映画史に刻まれた、SF映画の金字塔。



©1962 ARGOS FILM

#### サン・ソレイユ *Sans Soleil*

【フランス/1983年/100分/DCP/カラー】

世界を旅するカメラマンからの手紙を読む女性の声（日本語版は池田理代子）に導かれて始まる世界の映像。とくに日本とアフリカという両極にある世界の映像が、混沌とした記憶として時間と空間を駆けめぐる。記録でも日記でもない斬新な映像作品だ。



#### シベリアからの手紙 *Lettre de Sibérie*

【フランス/1957年/61分/DCP/カラー】

ソ連時代のシベリアを描いたドキュメンタリーであり、ナレーションと映像がこの「偽りの旅行記」に独特の意味を与えている。クリス・マルケルは、現地の人々の生活、社会の近代化、探掘者など、様々なテーマを取り上げている。共産主義の偉大な成果を称賛しつつ、同時に極めて遅れた側面を持つソビエト連邦の実態を浮き彫りにしている。



### アラン・レネ監督作品 Le film d'Alain Resnais

#### ヒロシマモナムール *Hiroshima mon amour*

【フランス=日本/1959年/91分/モノクロ/デジタル】

出演：エマニュエル・リヴァ、岡田 英次

広島に反戦映画のロケに来たフランス人女優と日本人の建築技師。二人は偶然出会い、一夜の情事に身をまかせる。女優は、独軍占領下のフランスの田舎で、敵兵と密通して断罪された過去を持つ。そして知る、広島悲劇。時あたかも1957年8月。原水禁運動を背景に、二人の孤独な会話……。焦土から奇跡の復興を遂げたその町は、しかし死の影を決して忘れることはない。



### 【トークゲスト *Invité*】



写真：八島崇

#### 岡田秀則 *Hidenori Okada*

1968年愛知県生まれ。フィルムアーキivist。国立映画アーカイブ主任研究員。映画フィルムの収集・保存や上映企画の運営などに携わり、現在は映画資料のアーカイビングと映画展覧会のキュレーションを担当。また内外の映画史を踏まえた論考、エッセイを多数発表している。単著に『映画という《物体X》』、共著に『クリス・マルケル 遊動と闘争のシネアスト』など。『ラ・ジュテ』Blu-Ray ディスク附属ブックレットにエッセイも寄せている。